空

栗山政子

ハンカチの花が夜空を滑り落つ
緑蔭の奥へ奥へと蝶と行く
夏野原大きな石は風を溜め
降りさうな空を流るる祭笛
天辺のそよぎて秋の木となれり
花束の白き香りを抱へ処暑
種採や遙かなものへ声をかけ
雲速し鶏頭一本かつと照り
木犀の香やみづうみに風の浮き
雨去りしあと黒黒と山葡萄